



## 抱負を掲げて心機一転 ～それぞれ新たなスタートへ～



それぞれの思い(抱負)を繋ぎ合えました

皆様、こんにちは。日本は雪が降り、寒さがまた一段と厳しくなってきた頃ではないでしょうか。子どもたちに「日本は今雪が降っていてとても寒いんだよ」と話しをすると「雪はどんな形なの?」「どれくらい寒い?」と興味津々な様子です。そんなカンボジアの子どもたちにも雪を見せてあげたいという気持ちになります。カンボジアも今は寒い時期で、朝方は18度くらいに気温が下がります。しかし、子どもたちのいつもと変わらない元気さで、不思議と寒さを忘れてしまいます。

さて、今回のドリーム通信(カンボジア孤児院通信)では子どもと職員全員で書いた今年の抱負のご紹介と、国立健康医科大学に合格した子どもと、卒園し就職の道を選んだ子どもをご紹介します。

### 2016年、今年の抱負

カンボジア孤児院「夢追う子どもたちの家」は今年も皆様のご支援のおかげで、無事に新年を迎える事が出来ました。気持ちを新たにし、感謝を込めて今年自分が頑張ることを全員で書きました。

子どもたちに去年の抱負は守れたか聞くと「守れた」と元気に答える子どもと、顔を背けて苦笑いをしている子どもがいました。今年は欲張ってたくさん書き過ぎないこと、具体的に書き、絶対守るという強い気持ちを持って書くように伝えました。子どもたちの抱負をいくつかご紹介します。

「英語でクラス1位をとる。農園で野菜をたくさん育てる」

ープット・ソッリダー (小学6年生・女子)

「去年は数学がよく出来なかったので、今年は数学を頑張る。調理のお手伝いをたくさんする」ーユン・サイハーン (中学1年生・女子)

「良い子になり、小さい子に指導をする」

ーメーン・タイ (中学3年生・男子)

「部屋をきれいに保つ! クラスで5位以内をとる」

ートム・ティアン (高校2年生・男子)

「高校卒業試験でB判定をとる」ーチョム・サルーン (高校3年生・男子)

1年後振り返った時に今年自分が書いた抱負を子どもたちが「達成できた」と胸を張って言えるように毎日努



これだけは絶対に成し遂げます!



去年の自分を振り返り抱負を書きました



孤児院初の医大生誕生！



皆の前で堂々と結果報告



別れの挨拶、感謝の気持ちを話しました



一番お世話になった保母さんと

力して欲しいです。そして、子どもたちの抱負が達成できるように職員は全力でサポートしていきたいと思います。

### moon・ニセツ 医大合格

去年孤児院を卒園し受験の為、8月末からSAJ プノンペン事務所で生活しながら塾に通い勉強していたmoon・ニセツが、見事、国立健康医科大学に合格しました。全国から秀才が集まる大学で今年も300人の定員に対し、1500人の秀才が受験しました。

1月17日に合格の報告をしに園に来てくれました。「国立医科大学に合格することが出来ました。今まで本当にお世話になりました。皆さんありがとうございました。」と皆の前で挨拶をし、皆からニセツへたくさんの祝福の拍手とエールが送られました。

ニセツは「医者になりたい」と小さい頃から夢を持ち続け、園では勉強熱心で勉強がわからない友だちにもすすんで教えてあげていました。また保母さんのお手伝いも積極的で周りの人のことを考えてあげられる優しい子でした。

努力の結果、医者へのスタート地点に立つことが出来たニセツを心から祝福し、貧しい人の味方になれるお医者さんになってほしいと、これからも応援していきたいと思います。

そして今回の報告は今の高校3年生にとって大きな励みとなり、また良い刺激になりました。皆からも来年良い報告を聞くことが出来るように頑張ってもらいたいと思います。

### クオイ・チャンター退園、就職へ

クオイ・チャンター（高校3年生・男子）が1月23日に孤児院を退園し、コンポンチュナン州のガソリンスタンドに就職する事になりました。

高校3年生になり授業についていけなくなり、授業もサボるようになりました。本人と何度か話し合いをもち「高校卒業するまで勉強を頑張る」気持ちになったこともありましたが、高校を辞めて仕事をしたいと話すようになりました。

カンボジアは縁故社会です。今ではプノンペンの工場現場の人夫にも縁故者がいなければ、採用されません。ところが、いつもSAJ Carの給油に立ち寄るスタンドの社長さんがSAJのカンボジア支援のことを知っていて、住田事務局長に「孤児院に、このスタンドで働く子がいらないか？すぐに採用したい！」と頼まれ、チャンターのことが頭に浮かんだそうです。めったにないチャンスです。園職員と相談した上でチャンターに話すと、「勉強がわからないので働きたいです！」と大喜びです。

毎日一生懸命働き、ガソリンスタンドの仕事を覚え、たくさんの人や自動車と日々関わりながら、自分の経験を積み、夢に向かって一歩ずつ近づいていって欲しいと思います。